

2021年度（2021年9月）卒業アンケート結果について

2022年9月26日

教育支援部長

2022年9月卒業生48名に対して41名の回答（85.4%）であった。以下、設問ごとにその分析を付す。回答結果については最後に一覧表を掲載する。

I 専修言語について

回答結果には、現代英語学科が3名、国際コミュニケーション学科が38名となっている。9月卒業生の多くは留学生であり、その多くが国際コミュニケーション学科日本語専修の所属であるため、このような結果となっている。留学生の場合、まずは日本語力の向上を目指すのが最優先であるため、専修言語以外の学修数は非常に少ない。したがって、これは学生の不勉強の結果ではなく、ごく一般的な数値であると考えられる。

自分が中心的に学んだ研究プログラムは何かという設問に対しては、有効回答数45のうち約半数の21が「日本研究プログラム」と回答している。これも留学生が多いことに起因している。しかし、無回答が11あることから、「研究プログラム」そのものに対する理解が思いのほか浸透していないと史料する。これは今後の課題といえよう。

II 教育課程について

このカテゴリーには5つの設問が用意されているが、いずれも肯定的な回答が多い。ほとんどの学生が「①そう思う」あるいは「②ある程度そう思う」と回答してくれており、十分に自己評価であるが高い数値を示しているといえる。これもやはり留学生が多いためか、2番目の設問についても3月卒業生のアンケートと比較するとよい結果となっている。

III 大学生活について

5つある設問のいずれに対しても好意的な回答が多い。「①そう思う」と「②ある程度そう思う」を合算すると、全体の9割前後であり、全体的に肯定的であると考えてよいだろう。

IV 自由回答について

回答数は11であり、全体の約25%。そのすべてが大学に対して好意的な回答であり、教職員に対する謝辞が多い。これは大変にありがたいことであり、本学のスタッフ一同の努力の賜物であると付記しておきたい。

V 最後に

アンケートの回答結果を見る限り、卒業生は十分に満足してくれていると自負する。何度も述べているように9月卒業生は留学生が多いため、3月卒業生のアンケート結果とは若干異なる部分もあるが、全体的には好意的な印象を大学に持ってくれていることには変わらない。しかしながら、さらに満足してもらえるような環境整備のために教職員一同のさらなる努力を期待する意味でも、この分析結果がその一助なることを願う。

以上